

地域医療研修レポート

名古屋第一赤十字病院 研修医 2 年目

4 週間の地域研修をさせて頂き、ありがとうございました。3 次救急病院であり、全ての診療科の専門医が勤務する、名古屋第一赤十字病院の環境では得られなかった、様々な体験をすることができました。研修が始まって以来、最も濃密な時間を過ごさせて頂いたと思います。特に、毎日業務後に全ての外来患者さんを振り返るカンファレンスや、若手の指導医の先生と話し合う時間が毎日持てたことは、大変勉強になりましたし、モチベーションを高めることが出来たと思います。先生方は教育熱心で、医療に対して情熱を持っておられる先生ばかりでした。将来、市民病院の先生のような、優れたジェネラリストとなれるように、努力したいです。

私は、将来的に開業医として、自分の生まれ育った名古屋市のプライマリケア、内科一般の診療を行いたいと考えています。その目標にあたって、自分自身の専門を深め、大学病院での診療や、医学という学問にも触れたいと思っていますが、クリニックの診療で最も主たる医療のあり方を、この総合診療科の研修で垣間見ることが出来たと思います。

医療資源の限られた外来では、詳細な問診と身体診察から、体系立てた鑑別診断を考え出すことが求められます。この 4 週間で学んだ問診の仕方やアセスメントの組み立てかたは、今後日赤病院へ帰ってからも忘れないようにしたいと思います。

医療を行うに当たり、日赤病院では多くの場合、最大限の検査と最大限の治療を行うことが前提としてあるように感じておりました。しかし、実際には患者さんの「病気」そのものを診療することだけではなく、患者さんや家族のニーズにあった診療を提供することが重要であることに気付かされました。

市民病院にいらっしゃる患者さんの多くは高齢者であり、今後の ADL や治療へのアドヒアランスを考慮しながら、どの程度まで検査や治療を行うべきか、どのようにしたら患者さんや家族の苦痛を和らげられるのか、といったことに、もう少し着目してみようと思いました。そして何より、市民病院の先生方は、患者さんや家族との心理的距離が近く、またコメディカルの方など他のスタッフ、救急隊の隊員さんなどから厚い信頼を寄せられています。知識や技術を高めることは大切ですが、地域医療で最も大切なのは、一人一人の人間に対して敬意を持って真摯に向き合うことであり、そうした人格を備えた医師になれるように、残りの研修期間を有意義に使いたいと思っております。4 週間大変お世話になりました。